

悲願達成！県内クラブのチャンピオンに。若手が支え初制覇。

県内トップアマが所属クラブの名誉をかけて、団体戦で県1を争う第6回県クラブ対抗競技大会が10月31日、矢板市の矢板カントリークラブで、県内35クラブが参加して開かれた。第2回大会から連覇を果たしてきた矢板CCが今年も本命視されていたのを、塩原CCが見事に覆し2位に1打差の386で優勝を飾った。

塩カンチームは県社会人アマ優勝3度で県大会アマ4勝の相馬義孝選手を主将に、昨年の知事盃グランドシニアの部優勝の中島正選手、県ミッドシニアの歴代優勝者の鈴木英利選手、前田智選手、中井和彦選手、若手の実力者、菊地諭史選手の布陣。上位5人のスコアを合計して順位を決める方式で争われた。圧巻だったのは菊地選手が5バーディー、3ボギー70の2アンダーで回ったこと。Cクラスのベストグロスに輝き、77と実力をみせた相馬選手とともにチームを牽引、中島選手が78、鈴木選手も80と手堅さを見せた。

2位は1打差で鹿沼プレミアムGC、3位は首位に2打差の那須CCだった。5連覇をねらった矢板CCは4位に終わった。

▽ 最終結果は以下の通り(6位まで)

- ① 塩原CC 386 ② 鹿沼プレミアムGC 387 ③ 那須CC 388 ④ 矢板CC 380 ⑤ 鹿沼CC 392
⑥ ニューセントアンドリュースGC ジャパン 362.





歴史的快挙を讃え、選手団に拍手。一層の地域貢献、親睦を。

理事長 渡辺 勇雄

錦秋の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、10月31日に矢板カントリークラブで開催されました第6回栃木県クラブ対抗競技大会におきまして、わが塩原CCが、初優勝の栄冠を勝ち取ることができました。この歴史的な快挙を、会員の皆様にご報告申し上げます。

大会は1打を争う激しい展開となりましたが、大会4連覇中の矢板CCを打ち破っての勝利は、格別な喜びであります。選手団の皆様は重圧の中、日頃の厳しい練習の成果と集中力、クラブ代表としての誇りを最後まで貫き通してくれました。その技量とチームとしての結束力、粘り強い精神力に心から敬意を表します。この優勝は選手個々の努力だけではなく、クラブ全体が一丸となった賜物であり、会員の皆様の熱意が選手達の背中を押してくれたと確信しております。

当クラブは今回の初優勝を新たな出発点として、今後もゴルフを通して地域の発展と皆様の親睦に貢献できるよう、一層努力してまいります。皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

われらかく戦えり

第6回県クラブ対抗競技大会で見事初制覇を飾った、塩原カントリークラブのメンバーに、それぞれの喜びの声と「われ戦えり」の思いを寄せてもらった。

(以下、順不同でご紹介させていただきます)

仲間の支えあればこそ。来年は連覇を。

菊地 諭史

塩原カントリークラブの一員として、団体優勝できたことを非常に嬉しく思います。また個人でもCクラストップという結果でチームを牽引出来たことは、ひとえに仲間の支えがあったからこそです。自分ひとりの力では決して届かなかったと思います。

チームの皆さまありがとうございました。来年は連覇出来るようさらに精進していきます。

- * 菊地諭史選手は翌週の6日に開かれた第15回県ミッドアマチュア選手権大会でも、2アンダーの70で初優勝を飾った。2つのパー5でバーディーをものにして「飛ばし屋」の異名を発揮した。
- * この大会では石井淳選手も3位に入った。



県ゴルフ史に「塩カン」の名を刻んだ！！

前田 智

今回の県クラブ対抗戦が私の本年ゴルフ競技の締めくくりとなった。春の関東クラブ対抗予選会で選手として参加できたが、前半で大きくスコアを崩してしまい全くチームに貢献できず迷惑をかけた。その反省から県知事盃の一般とシニアの部にエントリーして、練習も増やしてなんとか決勝にコマを進めることができ、競技ゴルフの場数を踏むことができた。

今回の舞台の矢板カントリークラブは以前メンバーだったこともあり気合いは十分。しかし前半の比較的易いと言われる「あざみ」では、大たたきはしなかったもののボギー列車に乗ってしまい 40。次の「ききょう」は不得意なコース。後半 1 番でフェアウェーにうまく運べたものの、左足下がりのライから思わずミスショット。そのあともミスが続きダボ。平常心を保てず次のホールは右スライスで山の中でダボ。

3 番ショートではワンオンしたものの、気合いを入れすぎバーディパットは強すぎの 3 パット。3 ホール 5 オーバーとあきらめかけたが、ここはチーム戦。1 打も無駄にできない。そのあとは賢明にくらいつき最終ホールまでに 6 オーバーと粘った。

最難関の 9 番ティーショットはうまくいったが、2 打目は左足上がりのきつい打ち上げ。8 番アイアンで渾身のショットはピン 1 メートル半のバーディチャンス。やや上りスライスだがグリーンは速い。しっかり打てばぬけて 3 パットもあるラインだがどうにかバーディーを取ることができた。あとはチームみんなのがんばりにかけるしかない。全員が上がってみると結果、皆の奮闘が実を結び矢板カントリークラブの 5 連覇を阻止し見事に頂点へ。

表彰式で優勝トロフィーをいただいた瞬間、チーム全員の努力と絆が報われた。今までの地味な練習やクラブの仲間や研修会メンバーとの切磋琢磨が今回の一人一人の頑張りに、そしてこの結果に結びついたのだろう。チームの誰かがあの 1 打を 2 打にしていたら優勝はできなかったのかもしれないからだ。

私は 5 番目のスコアながら勝利に貢献できたこと、チームの一員として皆と戦えたことを誇りに思うとともにこの場を提供してくれた塩原ゴルフクラブと研修会の仲間たち、メンバーに感謝したい。この勝利はチーム全員と支えてくださった皆さんとの信頼の象徴である。われら「塩原カントリークラブ」この名を、栃木のゴルフ史に刻む一日になったことをうれしく思う。



思わずガッツポーズ何度も。仲間に感謝。

鈴木 英利

第一回の大会に出場してから、毎年、いつかは優勝したいと思いながら練習に励んできた。今年も塩原チームは素晴らしいメンバーで組まれ、私もその一員になれたことがうれしかった。

今大会は自分なりの目標スコア70台を目標に出場したが、前半パッティングを決めることができずスコアをまとめることが出来なかった。後半も設定目標を目指してがんばってきたが叶わなかった。

結果が発表され、「塩原カントリーが優勝」と聞かされた時は自分の成績も忘れてうれしさのあまり何回もガッツポーズをとってしまった。そして「優勝」という大きな目標を達成できた素晴らしい仲間に巡りあえたことに感謝の気持ちでいっぱいになった。また、この大会で個々の責任の重さを知り、大きな喜びがあることも知った。

80歳を過ぎた私だが、ここまで塩原カントリーの一人として成長できたのは多くの仲間のおかげと感謝しつつ、「まだまだ青春」の気持ちで来年のクラブ対抗に向けて頑張っていきたい。

共に闘い、感謝と誇り。

中井 和彦

第6回栃木県クラブ対抗競技会において、初優勝のメンバーとして闘えたことを深く感謝すると同時に誇りに思います。

今年60歳の還暦を迎え、Bクラスに昇格(笑)「よし、やってやる！」と意気込みましたが、チームに貢献出来る成績ではなくとても残念です。しかし、自分としては感慨深い大会となりました。

ゴルフ仲間の勧めで塩原カントリークラブのメンバーとなり、すぐに競技ゴルフに目覚めました。当初、月例の朝はエレファントカシマシの`風に吹かれて、を聴きながら意気揚々とクラブへ車を走らせたことを思い出します。その後、研修会に声をかけて頂き入会させて貰いました。本当に有り難く感謝しかありません。

県クラブ対抗競技会は今後も毎年実施されます。個人戦でなくチーム戦、塩原カントリーチームの一員として責任を果たせるように健康に気をつけて、仲間・家族に感謝し、選手に選考されるようコツコツと努力を続けていきたいと思っています。

ご支援いただきました塩原カントリークラブの皆様・研修会の皆様、これからもよろしくお願い致します。



栃木県倶楽部対抗「優勝」バンザイ！

中島 正

毎年、代表選手として参加させて頂き有難うございます。今年のゴルフ内容はスランプに近い状態で、良い戦績を残せていない。声をかけて頂いたとき「辞退」の二文字が浮かびましたが、倶楽部対抗は相性の良い大会なので「了承」しました。

前田さんから練習ラウンドの予定を LINE で連絡があり、ベストを尽くしてトップを捕ろうと返信し自分に気合を入れました。練習ラウンドの時は、70 で周ってしまい「本番にとっておきなよ」と鈴木さんに言われるほど調子良かった。しかし本番になると丁寧に、大事にいこうという守りのゴルフをしてしまい、自分のゴルフスタイルに蓋をしてしまいました。

前半 41「俺は何をやっているんだ」と自分に問いかけ、自分のゴルフスタイルの、ボギーを恐れず攻めようと後半をスタートしました。

そう上手くはいきません。12 番のティーショットを大きく右に曲げ池に入れてダボを叩いてしまいました。14 番でバーディー、一つ取返し 36 を目指せと気合を入れました。16 番パー 3 でグリーンオーバー、寄らず入らずのボギー。17 番ナイスショット、残り 30 ヤードをバーディー。18 番ティーショットはフェアウェー左の木に当たり根元、「最悪！」グリーンを直接狙えない状況、ピンまで 110 ヤード、バックスイングは出来るがフォローが取れない、近い弾道でグリーン右バンカーからフックをかければグリーンには届く。イメージ通り打てましたが、グリーンには届かずエッジ止まり。グリーンまで 1mピンまで 7m、グリーンサイドには仲間が見守ってくれている。「確実にパーを狙おう」アプローチは 1.5mショートしたが何とかパーでホールアウトし 37。後半は自分らしいゴルフが出来ました。

結果論になりますが、2 位と 1 打差で優勝、チームの最後にホールアウトする私が、18 番でボギーだと同スコアで準優勝になってしまうところでした。「1 打に悔いの残る大会にならなくてよかったー」

最後に、優勝チームの一員になれたことを誇りに思います。



※今回は号外の為、「雑草博士のグリーン談義」と「中里プロのQ&A」は、お休みさせていただきます。
次回を楽しみにお待ちしております。

編集後記

これを快挙と言わずして、何という。遂に頂点に立った。県内のゴルフ場ごとのゴルフクラブのトップを決める競技大会で塩カンチームが優勝した。数えて6回目の大会だが、2回目以降は矢板CCが連勝して、今年で5連覇かとささやかれていた。それを塩カンの勇者6人が打ち破った。昨年の県知事盃の優勝者を複数出した快挙に続く慶事である。「新たな出発点として、地域貢献と親睦を目指す」。理事長のその言やよし。

井上 安正

